

令和3年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表 (第1回)

学校の教育目標 ○すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。(「問題解決力」の育成) ○丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。(「実践力」の育成) ○友達を大切にし、仲間の輪をひろげよう。(「人間関係形成力」の育成) ○目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。(「深く学ぶ力」の育成) ・重点目標 自 治 1 考える 2 思いやる 3 やりぬく						
1 目指す田無四中の姿 (1) 確かな人間関係を基盤とする「温かな学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活気ある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」						
2 目指す四中生の姿 (1) 自ら考え、学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな人間性を身につけた生徒 (2) 友達を大切にし、礼儀正しく接し、相手を思いやれる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやりぬく生徒						
3 教職員の姿 (1) 一人一人を大切にして生徒に寄り添い、温かく生徒を認める教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を重視し、「わかった」と言える授業を実施する。	4	4	授業の初めに「この授業のねらい」を生徒にしっかりと伝えることで、わかりやすい授業を目指した。教室正面の掲示物を減らし集中力を高める等の工夫もしている。	A	自己評価は適切である。
	学習用タブレットを中心にICT機器の活用を進め、興味をもって学べる工夫を行う。	3	4	コンピュータや視聴覚機器を使って、教材・教具の工夫を進める。また、講師の先生を招聘して、全教科で校内研究授業を行うことで授業力の向上を目指す。	A	自己評価は適切である。
	言語活動を生かした授業に取り組み、「思考力・判断力・表現力」の育成に努める。	4	4	自分なりの考えを基に、ペアワークや少人数での意見交換を行い、自らの考えを深めていく学習を様々な場面で設定していく。	A	自己評価は適切である。子ども同士の交流が減少しているため、意欲や自信をなくしている子が増えていることが心配である。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの諸活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感を育てる。	4	4	生徒の自主性を活かしながら、支え合う集団への帰属意識や自己有用感を高められるよう指導する。上級生を手本に進められるように3年間の育成計画を立てている。	A	自己評価は適切である。コロナの影響で、学級・学年作りが容易ではなかったと思う。
	学校図書館の活用を進め、朝読書や読書マラソンに取り組みさせ、読書習慣の定着を図りながら、学びを深めさせる。	4	4	始業5分前には登校し、朝読書を自分から始められるように促してきて、約9割に定着している。読書習慣によって心の豊かさを広げると共に、読解力の向上を通して基礎学力の向上を目指す。	A	自己評価は適切である。子どもの意見を尊重してあげることが大切である。
	道徳で人権や命を大切にする授業に取り組み、自他を尊重する態度を育てる。	4	4	道徳の教科化に伴い、すべての内容項目を網羅した計画的な授業の実践と、生徒の心を掴める優れた教材の発掘を目指し、授業研究を進める。	A	自己評価は適切である。生徒アンケートの結果、95%以上肯定的な意見であり、今後も継続してほしい。
個に応じた指導	基本的な生活習慣の育成を目指し、①あいさつを交わす②時間を守る③身だしなみを整えるなどのルールやマナーの大切さを理解させ、集団としての成長を図る。	4	4	生徒を中心に、保護者や地域の方々と共にあいさつ運動に取り組む。また一分前着席など、規範意識を大切にして、気持ちの良い集団を作っていく一員としての意識作りを大切に指導している。	A	自己評価は適切である。「頑張ったね。」と褒めてあげ、良かったところをどんどん伸ばしてほしい。普通にやっていることも褒めることが大切である。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの未然防止と早期発見に努め、生徒の学びを支援する。	3	4	年度当初や夏休み直後などの時期をとらえて、ふれあい週間や相談週間を年3回、保護者も交えた三者面談を年2回行うことで個々の生徒との信頼関係作りを目指し、いじめに対しても迅速な対応を目指す。	A	自己評価は適切である。
地域との連携	ボランティア活動や奉仕活動、清掃活動等を進め、生徒の自主性を伸ばすとともに、地域社会の一員としての自覚を育てる。	4	4	生徒会等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。1学期は、地域活動が少なかったが、校内での自主的な活動が活発に行われたと考える。	A	自己評価は適切である。パラリンピックを視聴し、これまでできなかったことが挑戦することでできるようになることを学んでほしい。
	学校公開や学校HP・学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育内容や生徒の活動について積極的に発信し、理解と協力を得る。	3	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。一斉メールの活用により行事の開催等の情報発信も継続していく。	A	自己評価は適切である。保護者アンケートで高い評価を得ている。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。

業務改善	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	4	教職員30人、4月から7月までの在校時間が60時間を超えなかった割合は97.5%。60時間を超えた教員は3人もGIGA担当、超えた月は全て4月であり、年度当初に業務が集中していたことが要因の一つである。
------	----------------------	---	---